

研究課題名	『特定行為「術中パッケージ」実施に於いて具体的指示書を使用した実践報告』
研究機関名	武蔵野赤十字病院 手術センター
研究責任者	所属 看護部 手術センター 氏名 松島 順子
研究期間	(西暦) 2024年 9月 ~ (西暦) 2025年2月
研究の意義・目的	術中パッケージでは循環作動薬、鎮静薬等調整は範囲外であり特定行為看護師はバイタルの異常の察知→指導医へ電話連絡→指導医からの直接指示→患者への投与を行っているが投与までのタイムラグは生じていた。そこで導入後にこれらの薬剤について指導医と患者個々に数値や投与量を決定し具体的指示を仰いでから看視を実施することにした。事前に具体的指示を仰いでいた場合とそうでなかった場合との薬剤投与と効果発現までのタイムラグを比較し、具体的指示書の有用性を検証する。具体的指示書の使用によって患者・使用者にどのような変化をもたらしたのか、これらの作成過程を振り返り実践報告することで術中看視の一助とする。
研究の方法 (対象期間含む)	2023年7月～2024年9月までに術中パッケージを実施したもののうち約30件(6ヶ月分相当)を無作為に抽出。具体的指示書を使用した症例と使用しなかった症例での血圧低下に対し昇圧剤を使用するまでの時間と反応までの時間を計測し有意差があるか検討する、具体的指示書に必要と考えられた項目や数値設定の作成プロセスを振り返る。 本研究は臨床研究倫理審査委員会承認後から開始し、2025年2月までに完結させる。
①試料・情報の利用目的および利用方法 ②利用し、又は提供する試料・情報の項目 ③試料・情報の取得の方法 ④利用する者の範囲 ⑤試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	①研究の結果を公表する際は、氏名、生年月日などの直ちに研究対象者を特定できる情報を含まないように充分留意する。また、研究の目的以外に、研究で得られた情報を使用しない。 本研究で収集し、分析等を行った情報は、研究の中止または研究終了後5年が経過する日まで、施錠可能な場所で保存し、その後は個人情報に充分注意して廃棄する。 ②具体的指示書に必要と考えられた項目や数値設定の作成プロセス ③診療記録(カルテ記録等)により取得 ④研究責任者、研究分担者 ⑤武蔵野赤十字病院 手術センター 松島 順子ならびに武蔵野赤十字病院 院長 黒崎 雅之
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 看護部 手術センター 氏名 松島 順子 TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525